令和４年　京都産業２１「新春賀詞交歓会」

１月１２日（水）に開催しました財団の「新春賀詞交歓会」での上田輝久理事長の中小企業の皆様に向けた応援メッセージをご紹介します。

新型コロナウイルス感染症を克服するための挑戦を力強く支援

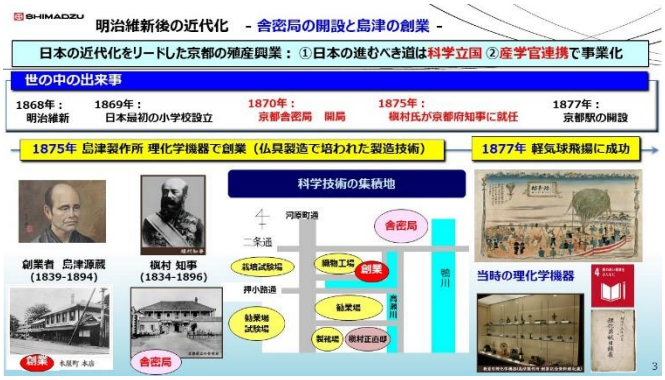
公益財団法人京都産業２１
理事長　上田　輝久

コロナ禍の厳しい時代に打ち勝とうと努力されている皆様へのエールとして、まず、今日のような目まぐるしい事業環境の変化の中で１４０年にわたり事業継続してきた島津製作所の歴史（経営哲学）を紹介させていただきます。

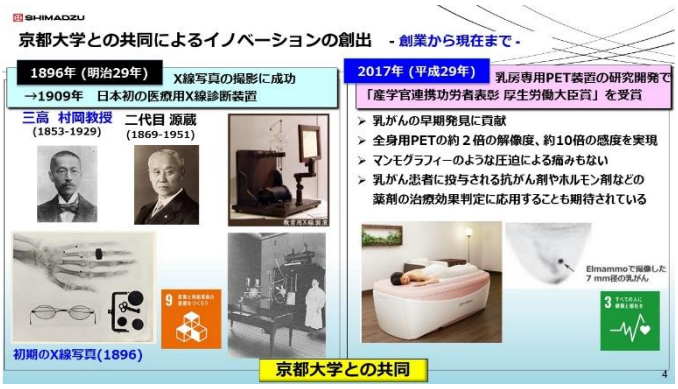
【舎密局の開設と島津の創業】

島津製作所は、京都発祥で、今でいうスタートアップから、長い年月をかけて発展し、今の業容に至っています。創業は１８７５（明治８）年で、当時は、明治維新後の殖産興業によって近代化が進みつつありました。そうした中、創業者の初代　島津源蔵は、日本の進むべき道は、科学立国と産学官連携の２つと考え、それらを創業理念に事業化を進めていきました。

創業当時は、京都舎密局が１８７０（明治３）年に開局し、１８７５（明治８）年には京都府知事に槇村氏が就任、その２年後に京都駅が開設するという時代でした。明治初期に日本の近代化が進む中で、初代源蔵は、仏具の製造技術を理化学機器の開発に転用し、島津を創業したのです。今も京都市中京区木屋町二条の創業の地に、島津創業記念資料館がありますが、当時の本社は舎密局に近く、初代源蔵は舎密局に足しげく通って外国の技術を学んだことが重要な経験になったのだと思います。その後、理化学機器を小学校に納入することになりますが、これはSDGsの４つ目の目標「質の高い教育をみんなに」に通じています。



二代目　島津源蔵は、１８９６（明治２９）年に京都大学（当時の第３高等学校）の村岡教授から指導を受けながら、共同でＸ線撮影に成功しました。それはレントゲン博士が１８９５年にＸ線を発見してから、わずか１１か月後のことでした。その後、教育用のＸ線装置と医用の画像診断機器の事業に発展していきますが、これはSDGsの９番目の目標である「産業と技術革新の基盤をつくろう」に通じるものです。



現在も京都大学との産学連携は続いており、２０１７（平成２９）年には京大の先生方と共同で、乳房専用ＰＥＴを開発し、産学官連携功労者表彰、厚生労働大臣賞を受賞しまし

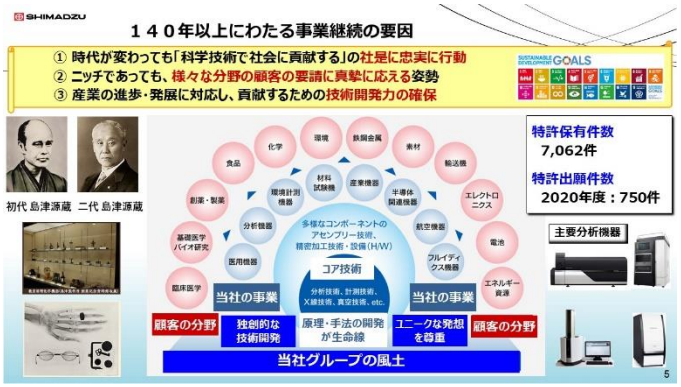
た。このマンモＰＥＴの特徴は、マンモグラフィーのような痛みがない診断であり、感度も高いので乳がんの早期発見に貢献しています。

このように、１２０年以上にわたる京大の先生方との交流が明治時代に創業したスタートアップである島津の持続的な成長につながっています。このマンモＰＥＴの開発は、SDGs の３番目の目標である「すべての人に健康と福祉を」に通じるものです。

【創業から現在まで】

島津が１８７５（明治８）年の創業以来、１４０年以上にわたって事業継続できている要因は、初代、２代目源蔵の「①社是に忠実である、②顧客の要請に真摯に応える、③技術開発力の確保」の３つの哲学であり、大切にしている風土は、「独創的な技術開発」と「ユニークな発想」を尊重することにあります。

当社の生命線は原理・手法の開発なので、外部との共同が非常に重要であると考えています。この外部との共同によってコア技術を創造し磨いていき、このコア技術を顧客からの要望への対応に活用することが、当社の事業につながっています。現在、当社の特許保有件数は約７千件で、製品・技術に関するものが多くなっています。



こうした企業活動もSDGsに通じるものですが、これは当社に限らず、京都の老舗企業共通の強みといえます。

【島津の社是・経営理念と現在の４事業】

島津の社是は「科学技術で社会に貢献する」、経営理念は「人と地球の健康への願いを実現する」であり、現在、分析計測機器、医用機器、産業機器、航空機器の４つの事業を展開しています。社是と経営理念は、SDGs につながっており、この４事業でそれを具体化しています。ここでは、２年に及ぶコロナ禍で、感染症対策プロジェクトを立ち上げて取り組んだ事例をご紹介します。

【新型コロナ対策】

新型コロナ対策に関する当社の取組は、３つに大別されますが、いずれも外部との共同・連携を含む取組を進めています。

まず、ウイルス検査については、PCR 検査試薬や検査装置に加えて、肺炎検査用の回診用 X 線撮影装置なども提供しています。これらの製品を用いた「新型コロナ対策に向けた仕組み作り」としては、PCR 検査の受託事業や、大学などでの PCR 検査センターの設立支援、さらに、大学と共同で、呼気を用いた新たな検査法の開発や、重症化リスクの予測などにも取り組んでいます。

また、治療薬やワクチンの開発に関連する分析機器の提供や、感染防止に役立つ製品の提供を通じて、今後も新型コロナをはじめと

する感染症対策の仕組み作りに貢献したいと考えています。

【次の感染症への備え　－ 感染拡大の予兆把握】

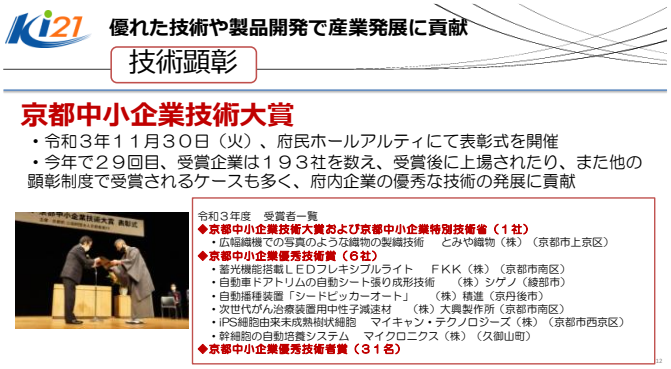
次の感染症への備えの一つとして、感染拡大の予兆把握が重要になります。その意味で、疫学調査を用いた感染拡大の予兆把握の方法として、塩野義製薬や京都大学などと共同した取組を進めています。基本的な考え方は、高齢者施設や病院などからの下水に含まれるウイルスの量をモニタリングすると共に、一般家庭から出る下水についても、下水処理場でウイルスのモニタリングを行うことによって、感染拡大の予兆を把握するというもので、変異ウイルスの把握についても、全ゲノム解析による大規模変異型解析が行うものです。欧米などではすでに取組が進んでいますが、日本でもこれらの実用化・社会実装に向けた取組を政府にも提案しながら進めています。次の感染症への備えの一つとして、感染拡大の予兆把握は非常に重要なテーマの一つと考えています。

【京都産業２１の取組紹介】

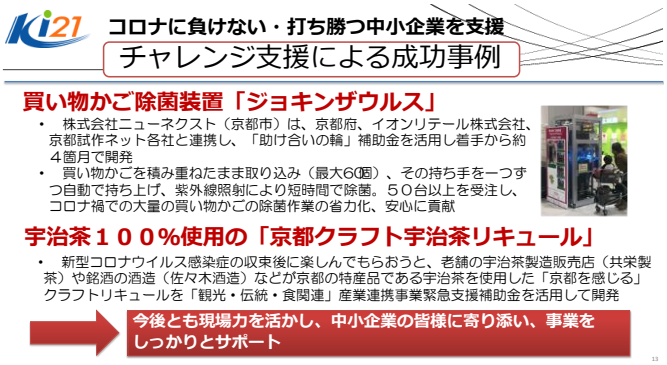
財団の役員（令和２年６月 理事、令和３年６月 理事長）に就任して１年半、京都産業２１の様々な事業を見てきた中から、その取組をご紹介します。

【コロナ禍に打ち勝つ新たな需要を開拓する中小企業を支援】

財団の一番大きなイベントであるＢtoＢに特化した京都最大級の展示商談会「京都ビジネス交流フェア２０２１」をはじめ、スタートアップ支援の「エンジェルコミュニティ」、優れた技術や製品の開発に成果を上げられ、産業の発展に貢献された方々を顕彰する「京都中小企業技術大賞」の表彰式などに出席し、企業の皆様のチャレンジ意欲や技術力の高さに深く感動しました。



また、コロナ禍で大手ショッピングモールと京都のものづくり企業とのマッチングで生まれた製品、買い物かごを自動で除菌する装置「ジョキンザウルス」も見せていただきました。その他にも宇治茶師や酒蔵など分野を越えたコラボで作ったクラフトリキュールの事例など、大変興味深い取り組みが進んでいます。このように財団が事業を支援する中で、実際にコロナ禍に打ち勝つ新たな需要に挑戦する企業の取組も生まれてきております。



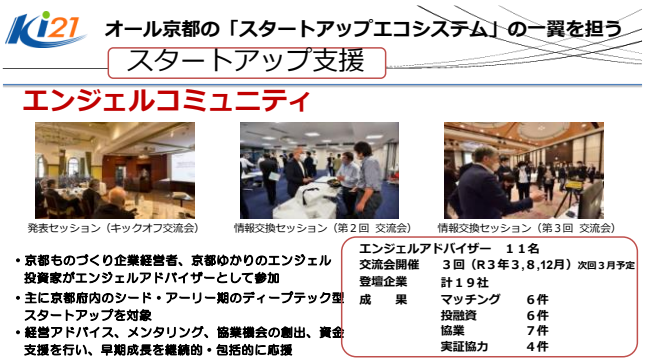
京都産業２１は、今後とも現場力を活かし、企業の皆様に寄り添い、皆様の事業をしっかりとサポートしていきます。

【オール京都の「スタートアップエコシステム」の一翼を担う】

「エンジェルコミュニティ」とは、京都ものづくり企業経営者及び京都ゆかりのエンジェル投資家からなるエンジェルアドバイザーで形成され、主に京都府内のシード・アーリー期のデ

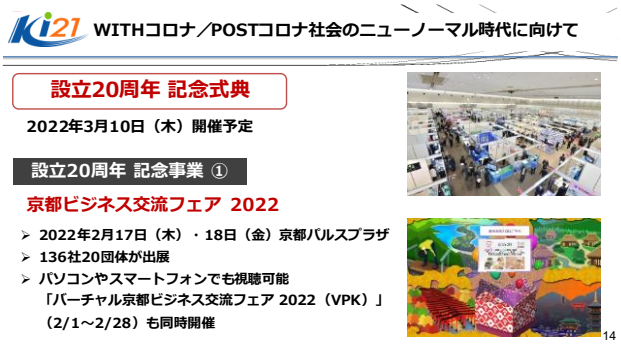
ィープテック型スタートアップを対象に経営アドバイス、メンタリングや資金支援を行い、早期成長を継続的・包括的に応援するコミュニティであり、主に次のような活動を行います。

- 厳選したスタートアップとエンジェルアドバイザーとの定期的な交流会の開催（年4回程度）
- エンジェルアドバイザーによるスタートアップへの経営アドバイス・メンタリング・資金支援
- 京都のスタートアップエコシステム各組織との交流及び協力
- その他，目的の達成に必要な活動



【設立２０周年事業とＤＸ化】

京都産業２１は、今期設立２０周年を迎え、３月には記念式典も開催する予定ですが、来る２月には、この２０周年の記念事業の一環として「京都ビジネス交流フェア２０２２」を開催することとしています。今回の交流フェアでは、リアル開催やオンライン開催に加えて、コロナ禍で営業活動が困難な企業の声に応え、複数の出展企業の工場内を３Ｄビジュアルや画像、動画によりウォークスルー形式で体感できる「KYOTO 町工場バーチャルツアー」を初開催するなど、コロナ禍に負けない中小企業の取組をしっかりと支援していきます。



【WITH コロナ／POST コロナ社会のニューノーマル時代に向けて】

WITH コロナ/POST コロナ社会のニューノーマル時代において、ビジネスを継続・拡大してくためには、「KYOTO 町工場バーチャルツアー」のような、これまでとは異なる取組も必要となってきており、今後、デジタルトランスフォーメーション（DX）が重要なキーワードとなってきます。

このような中、中小企業支援については、時代の要請として職員の経験とスキルに基づく支援に加えて、データに基づく支援が求められています。そのため、財団の顧客管理システムを拡充し、ＡＩ等のデジタル技術を活用するなど、自らのＤＸを推進することで、企業の皆様への支援強化を図ります。

【結びの言葉】

本日お話させていただいたように、島津製作所も明治８年にスタートアップとして創業し、発展してきた歴史があります。京都は、数々の企業を創出してきた地域であり、新しい事業が芽生え、成長していく土壌があるところです。そうした中小企業の皆様やスタートアップの皆様の会社が、大きく飛躍し成長されるよう、しっかりと寄り添って、サポートをさせていただく所存です。

最後に、２０２２年もオミクロン株によりコロナ禍が続くと予想されますが、国内外で進むワクチン接種やコロナ経口薬の開発等により、ニューノーマル時代に向けた新たな成長軌道を

創造することを目指す、非常に重要な年になると考えます。

皆さんが新たな価値を生み出す良い仕事をしながら、さらに成長していくためには、皆さんとご家族の健康が大前提です。皆さん一人ひとりが、例年にも増して、心と身体の健康に留意され、元気で公私ともに活躍されることを祈念いたしまして、私からの年頭の応援メッセージとさせていただきます。